

The Natural Resource Economics Review

No. 13

2007

“Working Farmers” and the Forced Collectivization in the East Germany.
Kreis Bad Doberan in Bezirk Rostock 1958-1960.
……………Yoshihiro ADACHI (1)

The Socioeconomic Structure and Regional Economic Zone
of the Western Area of Mt. Kilimanjaro
…………… Hideyuki TSUJIMURA (51)

Food & Agricultural Policy and Impacts of Droughts on Grain Market
Situation in Australia ……………Masaru KAGATSUME (69)

Agricultural-food business, “Tourisme et Terroir”
A Close-up study of the industrial cluster based on new network theory
…………… Shigeaki ODA, Haruhiko IBA, Bunyou KAGAWA (89)

(Note)

Old Documents of Forestry and Forest Products in Ohara of Kyoto, Japan (1)
……………Kozue TAGUCHI, Koji MATSUSHITA, Hideo Uno (124)

©Natural Resource Economics Division
Graduate School of Agriculture
Kyoto University

生
物
資
源
経
済
研
究

第
13
号

二
〇
〇
七
年

三
月

生物資源経済研究

No. 13

2007年

戦後東独農村の全面的集団化と「勤労農民」
—バート・ドベラン郡 1958-1960— ……………足立 芳宏 (1)

キリマンジャロ西部地域の社会経済構造と地域経済圏 ……………辻村 英之 (51)

オーストラリアにおける食料農業政策の展開と
大旱魃後の穀物需給の動向 ……………加賀爪 優 (69)

アグリ・フードビジネスとツーリズム・テロワール
—「新ネットワーク」論に基づく地域産業クラスター研究の今日的課題—
……………小田 滋晃・伊庭 治彦・香川 文庸 (89)

(研究ノート)

京都大原の山林文書 (一) ……………田口 標・松下 幸司・宇野日出生 (124)

京 都 大 学 大 学 院 農 学 研 究 科
生 物 資 源 経 済 学 専 攻

『生物資源経済研究』規定

1. 投稿資格・著作権・編集要領

- 1) 単著論文の投稿資格者は、生物資源経済学専攻（以下、専攻と略記）教員、本専攻在籍中ないし在籍後5年以内の内地
 研究者・外国人招聘学者・外国人共同研究者、および編集委員会で特に認めたものとする。なお、別途定める『生物資源
 経済研究』内規に基づき、本専攻の院生（およびこれと同等以上と認められる者）も、専攻会議の了承のもとに投稿
 できる。
- 2) 共著論文の第一執筆者は本専攻教員に限定するものとする。
- 3) 著作権：本誌に掲載された論文・抄録の著作権は、本専攻に属するものとする。なお執筆者自身が自らの論文を利用す
 ることは差し支えないものとする。
- 4) 原稿の採否の決定：原稿の採否は、複数査読にもとづき編集委員会が行うこととする。採用決定日をもって受理日とす
 る。
- 5) 発行回数と別刷り：年1回発行を原則とする。別刷りは各原稿当たり20部まで無料で著者に贈呈し、それ以上は著者の
 実費負担とする。
- 6) 著者校正：著者校正は原則として2回行う。誤植以外の加筆・修正はできないこととする。

2. 執筆要領

- 1) 原稿種別は論文と研究ノートの2種とし、投稿者は投稿時に種別を明記する。
- 2) 原稿枚数は、図・表を含め、和文の場合は横書き400字詰め原稿用紙換算で50枚以内、英文の場合は、A4用紙にダブル・
 スペース（28行、1行10～15単語）で30枚以内を目安とする。和文の場合は英文抄録（300単語以内）と英文題名を、英
 文の場合は和文抄録（800字以内）と和文題名を投稿時に添付する。原稿は完成原稿とそのハード・コピー2部を、デー
 タ・ファイルを添付の上で、編集委員長ないし副委員長に提出するものとする。
- 3) 特殊な専門用語・学術用語のほかは、原則として新仮名遣い・常用漢字を使用する。
- 4) 論文の節項表示は、1. (1)、1)、aのようにする。
- 5) 単位は%、kg、haなどの略号を用い、数字は5億6,728万などと表す。
- 6) 図表は、図1、表1 (Fig1, Table 1) のように示す。また図表の挿入位置については、完成原稿の右余白に朱書きで明示
 する。
- 7) 本文注記は各頁ごとではなく本文末尾に一括して掲載する。また引用文献は注記を原則とし下記の要領によるものとす
 るが、各分野学会誌の様式に準じた表記も認める。
 - 1) 和文の場合
 - a. 著者名『書名』（シリーズ名）、出版社、出版年（奥付けによる）、ページ。
 - b. 執筆者名「論文名」、編著者名『書名』（シリーズ名）、出版社、出版年、ページ。
 - c. 執筆者名「論文名」、『雑誌名』巻号（年月）、ページ。
 - 2) 欧文の場合
 - a. 名頭文字. 姓, 書名（出版他：出版社、出版年）、p.（または pp.）
 - b. 名頭文字. 姓, “論文名”, 雑誌名, 巻号（月、年）、p.（または pp.）

付 記

- (1) 本規定の改正は専攻会議の承認を得なければならない。
- (2) 本規定は平成7年9月14日より実施する。
- (3) 本改正は平成13年7月31日より実施する。
- (4) 本改正は平成17年2月1日より実施する。
- (5) 本改正は平成20年1月1日より実施する。

執筆者紹介 (掲載順)

足立 芳宏 京都大学農学研究科 (比較農史学分野)
辻村 英之 京都大学農学研究科 (農業組織経営学分野)
加賀爪 優 京都大学農学研究科 (地域環境経済学分野)
小田 滋晃 京都大学農学研究科 (経営情報会計学分野)
伊庭 治彦 神戸大学大学院農学研究科
香川 文庸 京都大学農学研究科 (経営情報会計学分野)
田口 標 京都大学農学研究科 (農業組織経営学分野)
松下 幸司 京都大学農学研究科 (森林科学専攻森林環境計画学分野)
宇野日出生 京都市歴史資料館統括主任研究員

『生物資源経済研究』第13号の編集を終えて

『生物資源経済研究』第13号をお送りします。本号は、これまでの号に比べて、2つの意味で斬新であります。その1つは、これまでの号の殆どが論文のみで構成されていたのに対して、新たに「研究ノート」のジャンルを掲載したことです。以前の号をすべて調べているほど暇ではありませんので、この号が本当にその最初であるかどうか必ずしも定かではありません。しかし少なくとも私の手元にある過去の何冊かの中にはこの例は見当たりません。一般に論文に求められるオリジナリティと熟度もさることながら、その資料としての価値の高いものや研究・分析の中間結果をいち早く公表することが求められるものは、このジャンルで投稿することに意味があると思います。最近では、多くの学会誌がこの範疇を無くして安直に論文に一本化しているようですが、学術的なジャーナルとしてのメリハリを欠くことにならないか危惧されます。この号の斬新さの今一つの点は、縦書きの原稿を含めたことです。この点は明確にこの号が初めてです。編集委員の間で色々議論した末に、過去の慣例に捕われず投稿者の強い希望を尊重することになりました。その結果、前からは横書き、後ろからは縦書きという折衷型の編集を採用することになりました。多様な原稿の投稿機会を提供するという点ではそれなりの意義があるとも思いますが、その是非は今後の編集委員もしくは皆様の判断に委ねたいと思います。何れにせよ本誌を充実させる上で、皆様の活発な投稿を期待しています。

平成20年2月26日

編集委員長 加賀爪 優

『生物資源経済研究』第13号編集委員 (五十音順)

足立芳宏 大石和男 加賀爪優 (委員長) 香川文庸 (副委員長)
川村 誠 武部 隆 辻村英之 中田義昭

生物資源経済研究 第13号

2008年3月25日 印刷

2008年3月31日 発行

編集 京都大学大学院生物資源経済学専攻
生物資源経済研究 編集委員会

電話 075-753-6201

発行 京都大学大学院生物資源経済学専攻
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

印刷 創文堂印刷株